

令和4年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立竹野小学校 ） 校長名（ 宇 川 博 久 印 ）

1 学校教育目標

ころ豊かに たくましく生きる竹野っ子の育成
 ～「させられる自分」から「する自分」へ～

2 学校教育推進の視点

- ① あたまの力 「5つの徹底・継続実践事項」の徹底 授業改善 I C Tの活用
- ② からだの力 体力作り 安全・防災教育の推進 食育・健康教育の充実
- ③ こころの力 非認知能力の育成 道徳・人権教育、体験活動の充実
- ④ 地域とともにある学校 ふるさと教育の推進 地域資源の効果的な活用 学校情報の積極的な発信

3 総合的な自己評価

「学校運営」「教育課程」「研修」「課題教育」「学校環境」の全ての評価分野で概ねねらいを達成している。本年度は、「させられる自分」から「する自分」へ、をテーマに主体的に活動する児童の育成をめざして取り組んだ。特に、授業のユニバーサルデザイン化を通して、すべての子どもがわかる喜びを味わえる授業改善に取り組み、統合した事への不安感を和らげ、主体的・協働的な学びの充実を図ることができた。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領 域	評 価 の 観 点	評 価 項 目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	主体的に活動する子（「させられる自分」から「する自分」）に育っているか	B	・「させられる自分」から「する自分」にするために、児童同士が助け合い、考えられるような声かけを意識し、主体的に活動していこうとする態度を育てる。 ・外国語指導助手との連携を一層強化し、教師も楽しみながら外国の文化、暮らしへの興味関心を高める授業づくりを行う。
	・ 道徳教育	教育活動全体で道徳心を育てることができたか	A	
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	外国の人や物に興味・関心を持った児童に育てたか	B	
	・ 総合的な学習の時間	ふるさと竹野を自分の言葉で語れる児童に育てたか	A	
	・ 特別活動	自主的・主体的に取り組む活動になったか	A	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	保護者等に積極的に情報を公開したか	A	・学校HPの更新、学校便り、学級通信等の発行、動画の配信等の情報発信の質の向上を図り、子どもたちの様子を保護者に積極的に知らせる。 ・勤務時間の適正化に向けた教職員一人一人の意識改革と組織全体の取組（ノ一会議デー、定時退勤日、校時表の工夫等）の充実を図る。 ・様々な場面を想定した防災・防犯訓練を行い、実効性のある体制をつくりあげていく。 ・日々の各教科の指導において、どのようなユニバーサルデザイン化をして取り組んだのかを、定期的に情報共有していく。
	・ 勤務時間の適正化	校務支援システム等を活用し、勤務時間の適正化を図ったか	B	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	園小連携、小中一貫のつながりを意図した実践を行ったか	B	
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	子どもの内面理解に努め、学校組織として適切な対応を図ることができたか	A	
	・ 職員研修の推進	研究主題をもとにユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた学習を計画または実践することができたか	A	
	・ 危機管理体制の整備	いざという時に適切な対処・対応ができるか体制が整っているか	A	
課題教育	・ 非認知能力の向上	やり抜く力、自制心、協働性を育む活動を意図的に設けたか	A	・非認知能力の向上では、どうしてその力が必要なのかをわかりやすく説明し、実践力に繋げていく。 ・コミュニケーション教育では、協働的な学びの充実と関連させながら、正解のない課題に行事と繋げて取り組んでいく。 ・教職員の人権意識を高める研修を行うとともに、人権週間を活用し、道徳の時間等で人権に関する授業を行なう。 ・特別支援教育では、定期的に児童理解の場を設けるとともに、分析方法に関する研修を行う。 ・環境教育では、各教科等の中に環境教育の視点を取り入れて、年間指導計画を見直す。 ・安全・防災教育では、事前に決められた訓練時だけでなく、日頃から児童に考えさせる時間をつくる。 ・市立図書館と連携し、読書週間、家読の日を設定するなど、読書活動の充実に努める。
	・ ふるさと教育	友だちの考えを受け止めて、課題の解決に向けて話し合う児童を育てたか	B	
	・ コミュニケーション教育	自分とは異なる他者を意識し、他者理解を通して自己の存在を見つめ、思考させる活動を意図的に取り入れたか。	A	
	・ キャリア教育	主体的に活動に取り組み、体験を通して課題を解決する児童を育てたか	A	
	・ 人権教育	児童の人権に対する意識を高めたか	A	
	・ 特別支援教育	特性を持つ児童の実態把握に努め、個への支援を充実させたか	B	
	・ 環境教育	ふるさとや生きものを大切にする児童を育てたか	A	
	・ 安全教育・防災教育	緊急時、適切に対応（自ら考え、判断、行動できる）児童を育てたか	A	
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	自分の健康を大切にする児童を育てたか	A	
	・ 読書活動	進んで読書しようとする心を育てたか	A	

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

学校教育改革推進委員会で、児童・保護者・教職員に対するアンケートの結果を分析した後、すべての教職員で、明らかに
 なった課題をもとに改善策を協議した。年度末評価の分析では、中間評価を踏まえて取り組んだことをもとに考えることで
 P D C Aサイクルを意識した取組になっている。

6 総合的な外部評価

学校自己評価結果の適正や改善方策の妥当性を協議した。評価委員からは「授業等を参観して、本当に統合1年目かと思う
 くらい仲がよい様子が覗える」「統合して色々心配したが、アンケートを見ると概ね好意的な意見が多く安心した」との評
 価をいただいた。統合を機に「竹野は一つ」という思いで、学校、保護者・地域が、「目指す子ども像」を共有し、保護者・
 地域との連携を強め、学校教育を推進していただきたい。

自己評価の妥当性

- 「教育課程」……自己総合評価“A”は妥当
- ・道徳教育では、年間指導計画に基づき充実した学習ができた、教育活動全体で道徳心を育てることができた。
 ・総合的な学習の時間（ふるさと学習）では、竹野地域の様々な事柄について関心を持ち、主体的に学習に取り組み発信しようとする児童が増えてきている。
- 「学校運営」……自己総合評価“A”は妥当
- ・生活指導では、「竹野のアハハ（あいさつ、はいという返事、はきものそろえ）」をスローガンにして取り組み、あいさつや返事の声が大きくなるなど、成果があった
 ・児童理解についての時間を定期的に設けることで、教職員が情報を共有しながら共通実践することができた。
 ・研修では、授業のユニバーサルデザイン化を通して、すべての子どもがわかる喜びを味わえる授業改善に取り組み、授業中に何をどうする時間なのか理解できたと感じる児童が増えてきている。
- 「課題教育」……自己総合評価“A”は妥当
- ・コミュニケーション教育では、演劇的手法を取り入れたコミュニケーション授業を実施し、他者認識、他者との協調・協働の意識が高まる児童が増え、学級活動が活発になった。
 ・読書活動では、市立図書館と連携して読書活動の充実を図ったり、教科や総合的な学習の時間と連携して調べ学習に活用するなど、本に触れる機会が増えた。